

バイオマス産業都市選定委員会の概要

1.開催日 平成 29 年 9 月 11 日 (月)

2.場所 農林水産省 共用第 1 会議室

3.出席者

【委員】 金谷 年展 東京工業大学ソリューション研究機構 特任教授
竹ヶ原 啓介 株式会社日本政策投資銀行 執行役員 産業調査本部 副本部長
(座長) 塚本 修 一般財団法人石炭エネルギーセンター 理事長
中村 一夫 公共財団法人京都高度技術研究所 バイオマスエネルギー研究企画部長
野村 充伸 株式会社フソウ 執行役員・技術本部長
横山 伸也 公立鳥取環境大学環境学部 特任教授

【関係府省】 内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4.概要

【要旨】

・ 7 府省合同でバイオマス産業都市選定委員会を開催し、4 つの視点 (先導性、 実現可能性、 地域波及効果、 実施体制) を中心に、今回応募のあった市町村についてヒアリング・審査を行い、結果 11 市町村 (北海道滝上町、北海道中標津町、北海道鶴居村、青森県西目屋村、山形県飯豊町、宮城県色麻町、栃木県大田原市、群馬県上野村、京都府京都市、広島県東広島市、山口県宇部市) を選定委員会の推薦案とすることを決定。

【主な意見等】

(1) 北海道滝上町

・ 木質バイオマスによる発生熱の育苗ハウス等への供給について、バイオマス熱利用の先進事例となるよう、実現可能性の観点から実施計画の詳細について引き続きよく検討の上で実施して頂きたい。

(2) 北海道中標津町

・ 停電により乳用牛にストレスが生じた過去の経験を踏まえ、家畜ふん尿を主原料としたバイオマス発電の導入による自立的エネルギー供給システムの構築を目指す構想。
・ 畜産バイオガスプラントプロジェクトにおける別海町との広域連携モデルの構築について、他地域の参考となるよう、連携内容を含む詳細を引き続きよく検討の上で実施して頂きたい。

(3) 北海道鶴居村

・ 構想に位置づけられている畜産バイオガスプラント等のプロジェクトと、釧路湿原におけるタンチョウ生息地保護の取組を含む周辺市町との協働による観光資源の保護・活用の取組の効果的な連携が望まれる。

(4) 青森県西目屋村

・ 地域ぐるみで木質バイオマスの循環型利用を目指し、村も出資する新会社を設立するなど、

地域の連携体制が整っている。

- ・ 薪エネルギーの活用に特長のある構想であり、中山間地における木質バイオマス活用のモデルとなる可能性が高く、今後の更なる取組が期待される。

(5) 山形県飯豊町

- ・ 全国で取組事例の少ない肉牛糞を主原料としたメタン発酵バイオガス発電の先進事例となる可能性があり、今後の更なる取組が期待される。

(6) 宮城県色麻町

- ・ 全国で取組事例の見られない鶏糞を主原料としたメタン発酵バイオガス発電の先進事例となる可能性があり、スマートコミュニティとの連携も含め、今後の更なる取組に期待される。

(7) 栃木県大田原市

- ・ 電力会社との接続検討について早急な調整を望む。また、生ごみの扱いについて、廃棄物発電の燃料にとどまらず、メタン発酵の原料としての活用についても積極的に検討を進めて頂きたい。

(8) 群馬県上野村

- ・ 小規模自治体であることのメリットを活かした、林業・バイオマス産業のコミュニティ形成による「上野村モデル」の実現が期待される。

(9) 京都府京都市

- ・ 食品廃棄物や下水汚泥を活用したバイオガス発電、廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料の製造、セルロースナノファイバーを含む先端技術の将来的な利用等、多様な取組を実施する構想。
- ・ 世界に発信するバイオマス産業都市として、高い先導性を有する各種プロジェクトの実現が期待される。

(10) 広島県東広島市

- ・ 地域内における肥料原料が恒常的に少ない中、堆肥製造を主眼に置いた堅実な構想であり、広島中央テクノポリスの建設に裏打ちされた行政の手腕が期待される。

(11) 山口県宇部市

- ・ 竹バイオマスの活用について先進事例となる可能性があり、竹の受入地域との連携促進も含めた今後の更なる取組に期待される。
- ・ エタノール製造プロジェクトの原料である紙ごみについては、メタン発酵ガス発電の原料としても有用であることを踏まえ、用途について事業者等と引き続き検討していく必要。